

第6回守山市環境審議会 議事録(議事要旨)

開催日時：令和6(2024)年2月21日(水)10時00分～11時20分

開催場所：もりやまエコパーク交流拠点施設環境学習室/オンライン

出席者：【委員】

(対面出席)

河瀬委員、島田委員、藤井委員、三橋委員、金崎委員、武田委員、松田委員、南井委員、大崎委員、津田委員、正木委員

(オンライン出席)

白石委員、長田委員、石原委員

【守山市関係者】森中市長、木村環境生活部部長、中野環境生活部次長、伴環境政策課長、田中環境政策課参事、杉江環境政策課主任

次第：

- ・開 会
- ・市長挨拶
- ・会長挨拶
- ・協議事項

第3次守山市環境基本計画 最終案について

パブリックコメントの結果について

最終案 本編

最終案 概要版

- ・答申
- ・閉会

協議事項：第3次守山市環境基本計画 最終案について

- (委員) 一般的にパブリックコメントでは、賛成の意見よりも反対の意見をお持ちの方が意見を提出されることが多いと思われる。このように、色々な意見を拾える状況にあるということは、健全な社会のシステムだろうと考える。
- (委員) 今回のパブリックコメントについて、多くの意見を出してもらうために工夫された点はあるか。また、どういった方法での意見提出が多かったか。

→(事務局) 今回は、中小事業者に脱炭素について知って頂くための脱炭素セミナーを1/23に開催したが、それと合わせて説明会を実施した。通常の説明会だけでは参加者が少なくなる傾向にあるため、38名参加頂けたことは良かったと考えている。今後については、説明会の在り方をどうするかということを庁内でも検討している。Youtubeで配信するなど色々な方法が考えられるため、今後出来るだけ多くの方に参加頂けるようにしていきたい。

また、今回の意見提出については、全て電子メールでの提出でした。

→(森中市長) 同時期に健康もりやま21という健康づくりのための計画のパブリックコメント

を実施していたが、そちらでは説明動画を作成して Youtube で配信した。視聴者の情報を見ると、普段市政にあまり関心の少ない年齢層にも情報が届いている可能性がある。パブリックコメントに限らずではあるが、今後の Youtube や SNS を活用した情報発信等について、良い事例が出来たと考えている。

- （委員）パブリックコメントの意見に基づき、太陽光発電設備の利用促進に係る計画の本文を修正される箇所、「景観との調和や地域との共生を前提に導入を進めます」とあるが、かなり踏み込んだ文言であると印象を受けた。景観との調和や共生というのは客観的に判断できる尺度がないため、後日問題になることはないか。

→（事務局）県では、景観保全や災害対策として設備の設置を一定規制していこうと考えられている。市でも同じ考えのもと、例えば事業系の大規模設備については、記載のとおり地域との共生が図れるものが必要であると考えている。ただし、個人用の小さな設備まで対象とすることは予定していない。

- （委員）兵庫県神戸市ではかなり早くから問題になっており、条例等を定めて対応してきた。書き方としてどうすべきか何とも言えないが、県の方針も踏まえるなか、市で条例やガイドラインなどを策定する見通しがあるのであればそれを踏まえた書き方になるのではないか。
- （委員）メガソーラーや災害対応を意識した文章と思われる。現状では、一般住宅も全て含まれるような書き方に見えるので、書き出しを「メガソーラーなど、大規模な太陽光発電設備の導入に際しては～」という記載にしてはどうか。

→（森中市長）小規模の設備でも、当然周辺地域の迷惑になるようなことがあってはいけない。皆様のご意見をお聞きするなかで、「配慮しつつ～」や「共生を図りながら～」など、方向性を示すような文言が適切ではないかと感じた。

→（会長）「地域との共生を前提に」という強い言葉で制限が入ると、市が進めたいと考えている太陽光発電の利用促進という施策に支障があるのではないかという趣旨の意見であったと思う。頂いた様々な意見を踏まえると、今市長が仰ったような「前提に」という文言を「図りつつ」等に修正しつつ、別途具体的な規制やガイドライン等は、今後、市で検討頂ければと思う。

- （委員）参考までに、県のほうで規制があるので、それに準ずることになる。これは市の計画での記載のあるなしに関わらず守っていかなければならない。更に厳しくするのであれば、大津市の条例などが参考になると思う。

答申：第3次守山市環境基本計画の策定について

- （会長）前段の修正する箇所が一か所あったが、その点を修正することを条件に計画の最終案について承認を頂いたと思う。これから審議会より市長へ答申を行いたいと思う。答申の内容について、配布されているものをご確認ください。
 - （委員）答申の4「審議会とともに計画に定めた指標を用いて進捗状況を把握、評価し～」の箇所について、進捗を管理するのは行政のみで実施していくということか。これまで申し上げてきたように、フォローアップを市民も交えた体制を将来的に作っていくというニュアンスは、この中に入っているのか。
- （会長）審議会から市長への答申にかかる留意事項であるので、ここに記載されている項目は全て審議会から市に対する意見となる。勿論この審議会のなかに市民の代表の方も入って頂いており、必要に応じて色々な説明会等で、進捗についても意見を頂きながらフォローアップして

いくことになると思う。

- （委員）本計画と同じく、国の第5次環境基本計画が今年度で終了し、第6次環境基本計画が来年度からスタートする予定である。県でも本計画と同様に、2030年を計画の目標年度としている。国・県・市が連携を取りながら進めていく、小さなまちからでも少しずつ目標に向かって進めていける計画であると自信を持って言えると思う。この答申のなかでもそういったニュアンスが入っていると認識している。

（会長より市長へ答申書手渡し）

（その他）

- （会長）最後に全体を通じ、何かお気づきの点やご意見等あればお願いします。
 - （委員）ホテルの自生区域の拡大に向けた調査・研究を進めることについて、P13に記載があるが、この中に「地域とともに～」等の文言を追加できないか。
- （事務局）本計画全体として、市民・事業者・行政と様々な主体が連携して進めていくと記載しており、個別に記載がない箇所でも、連携しながら進めていく認識です。
- （森中市長）それを踏まえても、新たに自生地域の拡大に向けた調査を行うにあたっては、地域の理解がないと進められないので、特出しで追記することは可能と思う。文言については整理したなかで追記していきたい。
- （委員）ホテルの話が出たが、前回の二次計画でも地下水をくみ上げて河川に流し、地域の事業者の協力も得ながらホテルが生息できる環境を維持していることについてかなり議論を行った。我々が思っている守山の特色は、今後色々な形で失われたり変化していく可能性がある。計画に定めた目標に向けフォローアップ、点検をしっかりと行い、目標へ向かって進んでいるのか、背景にある環境や状況は持続可能なものになっているか等、気を付けて進めていって頂きたい。また、市は自治会の加入率が高いことを誇りに思われている。その点も、今後どうやって引き継いでいくのか、どのように本計画に活かしていくのか、新しい計画での委員の皆様の議論に期待したいと思う。